

## ☆Live Bar雷神Presents : ばぐーす長谷川のロック向上委員会☆

### 『第7回 : Go To New Orleans』

#### ～ゴスペル、ジャズ、R&B、ファンク天国へGo～

今回のテーマはGo To New Orleans !

前回に続いて「その地域に根付いた音楽を聴いていく」回にしたいと思います。

ニューオリンズの音楽を聴いてみようと思った時、必ずといっていいほど出てくる言葉が

#### 【セカンド・ライン】

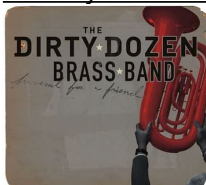
検索等した時に目に入り「これって何だろう？」と思った方は多くいらっしゃるかと思います。そこから説明すると長くなるので、今回の配信/動画をじっくりとご覧ください。とにかく独特で、人情味たっぷりの音楽が溢れています。そして、一聴しただけで「おっ、ニューオリンズやね」という個性を持っています。ジャズ、R&B、ソウル、ファンク、ロック好きならば1度は通って欲しい音楽となります。

このロック向上委員会の2回目「ブルー・アイド・ソウルって何なの？」の時にも、何度かニューオリンズという言葉が出てきました。アラン・トゥーサン詣とか（笑）。要するに、私たちが愛するミュージシャンの多くも、ニューオリンズの音楽に憧れていた訳です。

今回もご紹介できるのはほんの一部となりますが、“音楽で旅するGo To New Orleans”を是非、お楽しみください。

#### ■セカンド・ライン

##### 1: Dirty Dozen Brass Band / I'll Fly Away (Funeral For A Friend : 2004)



現ニューオリンズ・ブラス・バンドの中でも最も人気の高いDDBBの10th作。伝統的でありつつも、ファンクやソウル、ヒップホップを貪欲に取り入れたスタイルにて、ブラス・バンド界に革命を起こしたと称賛されている彼らがルーツに立ち返った作品。「ある友人のための葬儀」というタイトルが表すようにセカンド・ラインにのっとなって、ゴスペル、スピリチュアル・ナンバー（伝統曲）を、ファンキーに、グルーヴィーにアレンジした内容になっている。

<https://www.youtube.com/watch?v=OxL7YSf14yY>

#### ■R'n'R創始者のひとり

##### 2: Fats Domino / I'm Ready (Single : 1959)



Ain't That A Shame, I'm Walkin', Blueberry Hill, Blue Monday等のヒット曲を持つR&R創始者のひとり。ファッツのスタイルはR&Bを一般に広く浸透させ、その後のR&Rの誕生に大きく貢献したと言えるだろう。Elvis Presleyは彼のことを「R&Rの真のキング」と称賛しており、The Beatles等多くのミュージシャンからもリスペクトを受け続けてきた偉人である。

<https://www.youtube.com/watch?v=rBUBntLibiM>

#### ■New Orleans といえば

#### 3: The Dixie Cups / Iko Iko (Chapel Of Love : 1964)



1964年デビューの女性ボーカル・グループの1st作。今回選んだIko Ikoはニューオリンズのマルディグラ・インディアンを題材にしたナンバーで、ニューオリンズ関連のオムニバスにもかなりの確率で登場する楽曲だ。Dr. Johnはもちろんのこと、The Wild Magnolias、The Bell Stars、Cyndi Lauperもカバーしている名曲である。

<https://www.youtube.com/watch?v=OuC519ni1aE>

#### ■Allen ToussaintによるNew Orleans R&Bの素晴らしき世界

#### 4: Lee Dorsey / Yes We Can (Yes We Can : 1970)



New Orleansを代表するR&Bシンガーの名曲。Allen Toussaint（以下アラン）作詞作曲、プロデュース。ビルボードR&Bチャートで46位という中ヒットではあるが、後にPointer Sistersによるカバーのヒットを皮切りに、ホセ・フェリシアーノ、スライ&ロビー、マリア・マルダー、ジョス・ストーンらがカバーしている。

#### 5: Benny Spellman / Fortune Teller (Single : 1962)



New Orleansを代表するR&Bシンガーの名曲。アラン作詞作曲、プロデュース。シングルでヒットを記録したLipstick TracesのB面曲だがとても人気があり、The Rolling Stones, The Hollies, The Paramounts, The Who, 近年ではRobert PlantとAlison Kraussのデュオ作：Raising Sand (2007)でも取り上げられている名曲中の名曲だ。

[https://www.youtube.com/watch?v=3yLZAdF\\_pCU](https://www.youtube.com/watch?v=3yLZAdF_pCU)

## 6: Irma Thomas / It's Raining (Single : 1962)



Soul Queen Of New Orleansの愛称で人気の高いR&Bシンガーの名曲。アラン作詞作曲、プロデュース。この曲以外では、Otis ReddingがPain In My HeartとしてカバーしたRuler Of My Heartや The Rolling StonesによるTime Is On My Sideが有名。70年代以降はヒットに恵まれていないが、多くのレーベルを渡り歩き作品をリリースし続け、現在でも活動中とのこと。

<https://www.youtube.com/watch?v=8geaBMBaiql>

### ■Allen Toussaintのソロ作を聴く

## 7: Allen Toussaint / Soul Sister (Life, Love & Faith : 1972)

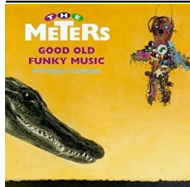


ソング・ライター、アレンジャー、プロデューサー、ピアニスト、シンガーと、音楽に関することほぼ全てを網羅して活躍した偉人のソロ3rd作。ソロ作としては次作：Southern Nightsが最も有名だが、このアルバムも捨てがたい魅力満載で、New Orleansらしさ（＝アランらしさ）が存分に出た作品に仕上がっている。アランをあまり知らないというロック・ファンは、アランが関わったロック作に先ずはフォーカスして聴いてみて欲しい。Little Feat, The Band, Robert Palmer, Jess Roden etc..ハマること間違い無しである。

<https://www.youtube.com/watch?v=uTdJoRpZwg0>

### ■New Orleans Funk=The Meters

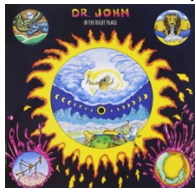
## 8: The Meters / Good Old Funky Music (Good Old Funky Music : 1990)



アランのもと、ハウスバンドとしての活動から始まったNew Orleans Funkの頂点：The Metersの「これがアウトテイク？」と言いたくなる、1968-70年代中盤にレコーディングされた未発表音源集。The Rolling Stones, Paul McCartney, Led Zeppelin, Little Feat, Robert Palmer等々、様々なミュージシャン/バンドから尊敬された、愉快でファンキーでヴードゥーでR&BでNew Orleansの香りプンプンな名盤だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=JAC8mRxGYt4>

### 9: DR. John / Right Place Wrong Time (In The Right Place : 1973)



Dr. Johnと言えば？の1枚/最高傑作。プロデュースはアラン、バックはThe Metersという当時のNew Orleans最高峰が集まった作品。Voodoo的怪しげな雰囲気を持ちつつ、愉快でキャッチーでシンコペーションがバシバシ効いた素敵なアルバムに仕上がっている。この良さが分かった方は、基本的にNew Orleans Musicに合っています。ドンドンとハマり続けてみよう。

<https://www.youtube.com/watch?v=W4PjWgiH-LQ>

### 10: The Meters / People Say (Rejuvenation : 1974)



泣く子も黙る大名盤。アランのもとでハウスバンド→The Metersとしてデビュー/インスト作→新境地として歌が入り始める→レーベル移籍→前出のDR. John / In The Right Place→そしてこの名盤という流れ。“いなたさ”が散見されたこれまでの作品から、一気に

洗練されたサウンドになっている。歌ものスタイルも板につき、ここではホーン・セクションも導入。これがThe Metersの創作の頂点だったと言えるだろう。

<https://www.youtube.com/watch?v=UpEmtoTv2iw>

在した音楽性は、好きになると病みつきになるだろう。